

Tweet

代替バス17往復を維持／十鉄

十和田観光電鉄(本社・十和田市)は11日、十和田市駅―三沢駅間14.7キロを結ぶ鉄道運行を本年度末で終了し、2012年4月1日から路線バスに切り替えることを正式に表明した。路線バスは、高校生が利用する時間帯の便数を確保するため、鉄道と同じ1日17往復程度を維持し、バス移行に伴う混乱が生じないようにする。十和田市役所で同日開かれた十和田観光鉄道活性化協議会の臨時総会で同社の白石鉄右工門社長が方針を説明した。

同社は来年の十鉄線開業90周年を目前に鉄道事業から撤退する。白石社長は鉄道廃止の理由について、(1)多額の設備投資が必要な状況で、鉄道事業が赤字のまま民間業者に事業継続はできない(2)沿線自治体議会や住民には、鉄道の役割は終わり、移動手段はバスでよいとの意見がある―などと語った。

同社が活性化協議会で示したバス運行の素案によると、鉄路と同じく十和田、三沢両市中心部を1日におおむね17往復運行する。乗り換えの不便を解消するため、鉄道より経路を延長する。バス停留所は、新設も含め34カ所を想定している。

運行系統は(1)十和田市中央―七百―柳沢―三沢駅―市役所前(2)十和田市中央―七百―柳沢―三沢駅―市役所前―三沢高校前(3)三高前―十和田市中央―七百―柳沢―三沢駅―市役所前―の3系統。高校生の登下校時は、停車するバス停を間引いて運行するバスを増便する。

バス運賃が鉄道より高くなることを不安視する声もあったが、白石社長は「バス料金は鉄道運賃を基本にしたい」と述べた。

例えば、三沢駅―工業高校は鉄道運賃と同じ520円を想定。三沢駅―三高前は鉄道運賃570円に路線バス運賃140円を加えれば710円となるが、バス直通運賃650円を想定。十和田市駅―三沢高校前は鉄道運賃570円に路線バス運賃を加えれば750円になるが、バス直通運賃660円を想定している。

同社は沿線の高校や関係自治体との協議を急ぎ、年内には具体的なバスダイヤや料金などの案を固める方針だ。

この動画はFLASHを使用しています

[動画サイト「東奥NETテレビ」はこちら](#)



記者会見で十鉄の鉄道廃止について説明する白石社長(左)と小笠原和彦取締役＝十和田市役所

-PR-